

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500515		
法人名	社会福祉法人 薫会		
事業所名	グループホーム こうえつ苑		
所在地	〒800-0207 福岡県北九州市小倉南区沼緑町1丁目11番21号 Tel 093-471-8215		
自己評価作成日	令和02年09月02日	評価結果確定日	令和02年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和02年10月02日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

レクリエーションでは、歌や折り紙などから輪っか投げなどのような昔懐かしいものまでいろいろと入居者の生活が豊かになるような活動に取り組んでいます。また、雑談やクイズなどで入居者に頭をよく使ったり、楽しく声をだす機会をたくさん提供するなど脳の活性化にも努めています。その他、隣接する特別養護老人ホームと合同で研修をしたりと職員の資質の向上にも努めています。外部との関係では地域との交流もさかんであり、餅つきや中学校吹奏楽演奏会、幼稚園児・保育園児のお遊戯などの行事を行い入居者の生活がリズムのある豊かなものになるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「こうえつ苑」は、「家庭的な穏やかな雰囲気の中で心豊かに笑顔のある生活を送れるように真心で対応いたします」を運営理念に掲げ、地域密着型事業所として17年前に開設した定員18名のグループホームである。平成30年11月に社会福祉法人薫会に吸収合併されてからは特に、隣接する複合型特別養護老人ホーム悦和の郷、軽費老人ホーム光悦園との連携を強化し、朝礼や研修、委員会活動、行事、レクリエーションを合同で行い、利用者同士、職員同士が交流を深めている。以前から地域交流が盛んであるが、今年度は新型コロナ感染対策として交流を控えており行事も少なくなっているため、利用者に楽しんでもらうと、職員のアイデアで隣接施設の交流サロンで「居酒屋」を再現し好評であった。長く勤務している職員が多く、利用者一人ひとりに応じた丁寧な対応で、利用者の笑顔のある暮らしに繋げている、グループホーム「こうえつ苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に職員一同で社会福祉法人薫会の運営方針と理念を唱和し、理念に沿ったケアを目指して日々研鑽している。	法人の運営方針と理念を掲示し、毎日の朝礼で唱和して理念の共有に努めている。職員は常に理念を意識し、利用者が、家庭的な雰囲気の中で心豊かに笑顔のある生活を送れるように、真心を込めて支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設と一緒に町内夏祭りや、運動会、市民センターでのふれあい祭り、幼稚園児・保育園児の演奏会等、地域との交流を図っている。	地域との交流は盛んであるが、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、地域交流は控えている。市民センターのふれあい祭り、文化祭には利用者と制作した作品を出展する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かすまでには至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族、地域包括支援センター職員、自治連合会長などの参加により、行事等の話し合いを行い、サービスの質の向上につなげている。	新型コロナウイルス感染症対策のため、5月の第1回運営推進会議は中止したが、7月の会議からは、家族や自治会役員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催している。会議では利用者の状況や取り組み、ヒヤリハットや事故等を報告し、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受け、それらの意見をサービスの向上に活かしている。	外部からの参加委員の増員を図り、より活発な会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	北九州高齢者社会福祉事業協会に参加し、市職員と情報を共有したり、アドバイスをもらえるよう取り組んでいる。	北九州高齢者福祉事業協会に参加して、行政と意見や情報交換を行い、連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を伝え、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議において身体拘束についての研修を行ったり、話し合いをもっている。その他、隣接する悦和の郷における虐待防止委員会に定期的に参加をし意識を高めるようにしている。	隣接する施設と合同で行う身体拘束適正化委員会に参加している。身体拘束の職員研修を年2回実施する事が義務化され、全体会議の時に研修を行う等、今まで以上に力を入れて取り組んでいる。身体拘束となる行為の具体的な事例を挙げて検証し、正しい理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議において身体拘束についての研修を行ったり、話し合いをもっている。その他、隣接する悦和の郷における虐待防止委員会に定期的に参加をし意識を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者や家族から相談があれば、いつでも説明できるように資料やパンフレットを用意している。	権利擁護の制度についての資料やパンフレットを用意し、必要時にはいつでも説明が出来るようにしている。現在、権利擁護の制度を活用中の方が3名いるため、後見人とのやり取りを通して、制度に関する理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約、介護報酬の改定の際には、家族等には十分説明し、納得してもらえるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付先をホーム内に掲示し、意見箱を設置している。家族の面会時に気軽に意見や要望を言うように努めている。	日常を共に過ごす中で、利用者の意見、要望を聴き取り実現出来るよう努めている。家族とは、電話等で密にコミュニケーションを取りながら、意見や要望、心配な事等を聴き取っている。「事業者評価アンケート」を実施し、結果を業務改善に活用している。	ホームの取組、利用者の暮らしぶりを伝え、家族との更なる信頼関係を築く手段として、行事を兼ねた家族会の開催と、ホーム便りの作成を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議などで意見や提案を聞き、反映できるように努めている。	月1回、全体会議やユニット毎の会議を開催している。全体会議では、職員から業務改善要望等、意見や提案が活発に出され、充実した会議になっている。出された意見や要望を検討し、ホーム運営や業務改善に反映できるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境・条件の整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、介護への思いなどを大切にしており、性別や年齢などで差別はしていない。	職員一人ひとりの事情に配慮して勤務表を作成し、長く働き続けることのできる環境を整えている。外部の研修に職員を派遣し、資格取得を奨励して、意欲的に働ける職場環境を目指している。職員の採用は、人柄や介護に対する考え方を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳、人権を守ることは日頃から全職員で心がけている。また、全体会議などで施設長が講師となり研修を行っている。	人権についての研修は、施設長が講師となって全体会議等の機会に行っている。また、毎日朝礼で理念を唱和することで、利用者主体の介護サービスを行うことの意識づけをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な外部の研修の知らせをしたり、研修を受ける機会を確保し、職員一人一人の介護サービスに対する取り組みとやる気を引き出して職員の質の向上につなげている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北九州高齢者福祉事業協会に加入し、地域の同業者と交流する機会を持ち、介護サービスの質の向上をさせていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に事前面接を行い、本人が利用に対して感じていることを伺い、安心して慣れてもらえるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談や施設見学の時に家族が困っていることや利用に対して不安に思っていることや要望などを話しやすいような状況を作って関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話等での問い合わせや事前面接において本人の状況及び周辺環境を聞き、必要としている支援を見極められるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人ができることへの参加を促し、笑顔で日々を過ごせるように会話を通して関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と日頃から情報交換を行い、利用者を家族とともに支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の訪問は断ることなく、気持ちよく以前の友人たちに会えるようにしたり、昔から利用している家具を持ち込めるようにもしている。また必要に応じて、以前から馴染みのあった場所への外出の手伝いをすることもある	近隣からの入居も多く、近所に住む友人、知人の面会もあり、ゆっくり寛げるよう配慮している。また、隣接する軽費老人ホームからの入居もあり、顔見知りの関係を大切にする等、利用者の馴染みの場所や人との関係がホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌や体操などのレクや雑談を通じて利用者同士のふれあいが図られるように支援をしている。また、なるべく折り合いの悪い入居者同士がトラブルにならないように席順など工夫をしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所の時なども、必要に応じて面会に行くなどして、家族からの相談等にものれるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聞き取りや、家族からの聞き取りなども踏まえて、利用者に関わる中でその方の思いや訴え等を把握できるように努めている。	長く勤めている職員が多く、馴染みの関係の中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。職員間で利用者から得た情報を共有し、介護サービスに反映出来るように取り組んでいる。意向表出が難しい利用者には、家族と相談したり、利用者の表情等から思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とのコミュニケーションをよく図るようにより、また家族との日々の会話の中で情報を把握するように努めている。また、入居される際には以前入所していた施設などからなるべく情報を頂けるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の会話や行動を観察するとともに、残存能力を発揮できる場面作りに努めている。また、観察して分かったことはなるべく記録に残して職員間でも情報が共有できるようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の要望を聞きつつ職員間の気づき等を検討し、本人が安心して生活できるような介護計画を作成している。	担当者は電話等で家族の意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で意見交換を行い、利用者の状態に合わせた介護計画を短期3ヶ月、長期6ヶ月で作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族と話し合い、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にその日の体調面、生活面などを記入するようにし、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かすように努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、要望に応じて、病院送迎、往診など柔軟に支援している。また、訪問診療や訪問看護などにも必要に応じて相談をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内合同納涼祭や焼き肉夏祭りなど地域のボランティアの方に手伝ってもらい、本人が楽しんで暮らせるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者または家族が希望し、納得している医療機関を受診できるように支援している。また必要に応じて今まで何度も通院をして信頼関係が築けている医療機関をこちらから紹介することも行っている。	入居時に、利用者や家族の希望を聞いて主治医を決めている。かかりつけ医の受診は、家族対応でお願いしているが、難しい時には職員が同行受診し、結果を家族に報告している。協力医療機関の医師による月2回の往診と訪問看護師、介護職員の連携で、24時間安心して任せられる医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護で、入居者の状態を観察してもらい何かの異常があってもすぐに対応できるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院できるように情報交換に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームにて出来ることと出来ないことを考え、かかりつけ医と相談できる体制を作っている。	契約時に、利用者や家族に、ホームで出来る支援について説明し、承諾してもらっている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と常に連絡を取りながら方針を確認し、他施設への転居や入院を含め、利用者が安心して過ごせる終末期の環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普段から急変時にはどうすればよいか職員間同士でコミュニケーションをはかるようにしています。急変や事故発生時に備え、訓練を行っている。隣接する悦和の郷と合同で定期的にAEDの取り扱いなど研修を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、隣接する軽費老人ホームの職員や入居者等の協力を得られるようにしている。	併設事業所と合同で行う夜間想定を中心とした避難訓練を年2回実施している。通報装置や消火器の使い方、避難経路、避難場所を確認し、非常時に職員が冷静に対応できるよう取り組んでいる。また、災害時に備えて、飲料水、非常食を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	もし自分が入居者ならばどのような介護をされたいかを常に考え、職員は一人一人の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を意識している。	利用者の人権を守る介護サービスについて、職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、特に排泄や入浴の場面での声掛けや対応に気をつけている。また、利用者の個人情報の記録の保管や職員の守秘義務については日頃から注意して、情報が漏洩しない体制を整えている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の中で利用者の意思決定を尊重し、思いや希望を伝えられる環境づくりに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中の雑談やタオル体操など利用者みんなで集う時間はあるが、その日の体調や希望を聞きながら日課の押しつけにならないように配慮している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容や本人の希望で訪問美容などを利用できるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者のその日の状態を把握し、台拭きなどを手伝ってもらい、楽しい食事になるように支援している。	配食サービスを利用し、調理専門の職員が温めて盛り付けを行い提供している。隣接施設と合同で行ったレクリエーション「居酒屋」で枝豆や冷奴を提供して雰囲気を楽しんだり、収穫したさつま芋を使った食レクを企画する等、利用者の笑顔に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ごとに食事量や水分量などをチェックし、一人一人の状態把握に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力に応じて声掛け誘導や口腔介助をしている。必要に応じて訪問歯科を利用しており、状況を報告して歯科より指示を受けて対応している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別にチェック表を作り本人の生活パターンに合わせて声掛け誘導を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、それぞれに合わせた声掛けや誘導を行っている。重度化してもトイレで排泄することを基本とし、必要であれば2名介助でトイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行訓練、水分チェックや服薬管理などで便秘の予防に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回ほどではあるが、利用者の希望や健康状態などを考え入浴を楽しめるように支援している。	入浴は利用者の希望や体調に配慮して週2、3回行い、清拭や足浴と合わせて、利用者の健康チェックと清潔保持に努めている。入浴が困難な利用者には、時間をずらしたり、職員が交代して声掛けし、無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整や週1回の寝具の交換など、気持ちよく眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬箱に、薬の種類や副作用、用量が書いた用紙を貼り付けて分かるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能であれば入居者の方にも手伝いをさせていただくようにしています。台拭きや洗濯物たたみ、本人の希望に合ったレク・アクトなどを提供し、楽しみながら生活できるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良いときは、グラウンドで散歩をしたり、体調をみながら少人数でドライブに出かけたりと支援をしている。	コロナ対策と利用者の重度化が進む中で、外出の機会は減っているが、気候の良い時期は、一人ずつ外気浴を行ったり、近隣の散歩に出掛けている。外出レクリエーションとして少人数でドライブに出かけ、気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのコンビニやスーパーなどに出かけて、支払いを行ってもらったりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望するときはいつでも電話をかけられるように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バルコニーなどに藤や桜、その他、季節の花を置き利用者に水をあげてもらうなどしている。アジサイなどの切り花をリビングのテーブルに置くなど季節感を感じてもらえるような工夫をしている。また、リビングにはソファを設置し、利用者がくつろげるように工夫している。	ホーム内は、利用者と職員と一緒に制作した手作りの作品や季節の花が飾られ、季節感、生活感のあるアットホームな雰囲気のある共用空間である。また、温度や湿度、光や音、臭いに配慮し、小まめな清掃と換気を心掛け、清潔感のある明るい共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、テレビや少人数でおしゃべりなどできるように工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やアルバムなどを持ち込まれるなどされて安心して過ごせるように工夫している。	入居前に利用者や家族と話し合い、長年使い慣れた家具や寝具、身の回りの大切な物等を、家族の協力を持ち込んでもらい、自宅のような雰囲気作りを心掛け、利用者が安心して生活できるよう支援に取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ等手すりの必要な場所には手すりを設置し、廊下やリビングには転倒しないよう極力物を置いたりせず、安全に歩行が出来るように配慮している。		